鳴沙山。三蔵法師もこうしてラクダに乗って旅をしたのだろうか

中国大陸観光テーマ案内図

五つのテーマで中国大陸を見る

中国駐東京観光代表処 新しい旅のスタイル提案

特集第５弾　西遊記

中国駐東京観光代表処は、中国大陸全土の観光魅力を「癒やし」「三国志」「古文明」「西遊記」「大自然」という五つのテーマで日本の消費者にアピールしている。今回はそのうちの一つ、中国西部で主に展開する「西遊記」の旅を紹介する。小説を片手に、玄奘三蔵（三蔵法師）と孫悟空の足跡をたどる旅が面白い。

陝西省　シルクロードの起点

三蔵法師ゆかりの大雁塔は必見

中国のほぼ中央に位置する陝西省。その省都であり、最大都市の西安（旧名・長安）は、秦、漢、唐など13王朝の都。アテネ、ローマ、カイロと並ぶ世界四大古都の一つで、遠く西域へとつながるシルクロードの東の起点となっている。

西安には二つの世界遺産がある。一つが「秦の始皇帝陵と兵馬俑坑」、もう一つが「シルクロード・長安―天山回廊の交易路網」だ。

兵馬俑は1974年、農民が井戸を掘削していたところ、偶然発見したという「20世紀の考古学における最大の発見」。秦の始皇帝が絶大な権力を誇示するため、兵や馬の塑像を焼成し、その陵を守らせたといわれる。

展示する博物館は総面積1万4263平方㍍。出土した武士俑だけでも約6千体。ほかに、陶俑陶馬約8千点、青銅器約4万点が発見されている。

秦の始皇帝陵は内城の周囲が2525・4㍍、外城の周囲が6294㍍というスケールの大きな陵墓だ。大きな土の山で、陵の周辺では兵馬俑坑が発見されているのみで、いまだ発掘されていない陪葬坑が多くあるという。

これらは1987年に世界文化遺産に登録されている。

一方、シルクロードの世界遺産は、西安から天山回廊を経て中央アジア（カザフスタン、キルギス）に至る範囲の史跡33カ所。このうち中国国内は22カ所、陝西省は7カ所、西安は5カ所が登録されている。

西安市内にあるのは大雁塔、小雁塔、唐長安城未央宮遺跡、漢長安城大明宮遺跡、興教寺。

このうち大雁塔は大慈恩寺の境内にある高さ64㍍の7層の塔で、唐の時代の652年に創建。玄奘三蔵がインドから仏教経典や仏像を持ち帰り、翻訳、保管した場所とされる。塔は登ることもできり、西安の市街地を一望する。

陝西省内の史跡はほかに、張騫墓（漢中市）と彬県大仏寺石窟（咸陽市）。

大雁塔

兵馬俑

甘粛省　西遊記の壁画発見

中国最古の作品　敦煌近郊の遺跡で

月牙泉

甘粛省は中国西北部の内陸、東西の長さ1600㌔、広さ45万平方㍍という広大な領域で、長江、黄河という中国の二大河川の流域が接近する場所に位置する。

省都の蘭州はシルクロードの一つ河西回廊の入り口に当たる。ここから武威、張掖、嘉峪関、そして敦煌へと、約1千㌔に及ぶ道がつながる。

武威は中国観光のシンボルマークに使われた「銅奔馬」が出土した場所。1969年、農民が井戸を掘ったところ後漢時代の将軍の墓室を発見。埋葬品として芸術性の高いこの馬の像が出土したという。

張掖にはチンギスハンの孫、フビライハンが生まれた大仏寺や、赤や茶色の地層が何層も重なる岩山の奇観、丹霞地質公園がある。

嘉峪関は長さ約6千㌔に及ぶ万里の長城の西端。その名を冠した嘉峪関市に位置する。明の時代に建てられた城壁や、遠く長安（西安）までのろしを上げ、時の政府に情報を伝達したという長城第一墩がある。世界文化遺産「万里の長城」（1987年登録）の構成資産の一つ。

敦煌は酒泉市の管轄にある県級市。シルクロードはここから天山北路、天山南路、西域南道の三つの道に分かれる。

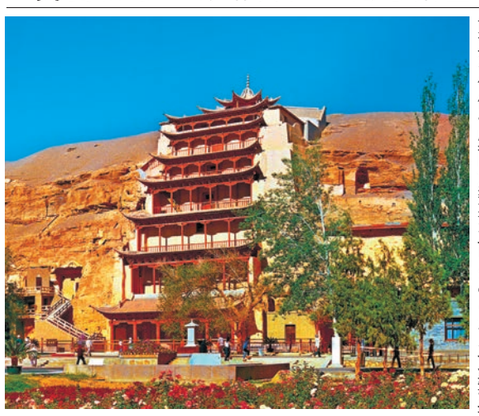
甘粛省観光のハイライトが敦煌の莫高窟だ。大小494の洞窟に、4世紀から11世紀にかけての貴重な仏像や壁画が数多く安置、保存されている。最も有名な第96窟は莫高窟で最大、世界でも3番目という高さ35・5㍍の仏像が鎮座する。1987年、世界文化遺産に登録。

東西40㌔、南北20㌔に及ぶ砂山、鳴沙山では、砂漠の中をラクダで散策したり、砂山をそりで滑降したりなどの遊びが楽しめる。砂漠の中には3千年以上も枯れずに水をたたえる三日月型の池、月牙泉がある。

2014年、シルクロードの関連遺産群が「シルクロード・長安―天山回廊の交易路網」の名で世界文化遺産に登録された。省内の遺産の構成要素は麦積山石窟（天水市）、炳霊寺石窟（蘭州市）、鎖陽城遺跡と墓群（酒泉市）、玉門関・河倉城遺跡（敦煌市）、懸泉置遺跡（同）の五つ。

敦煌市に隣接する瓜州市で2016年、中国最古とみられる玄奘三蔵と孫悟空の壁画が発見された。

玄奘三蔵の17年にわたるインドへの旅の様子を描いたもので、6枚の壁画全てに玄奘三蔵とともに、白馬を引く孫悟空の様子も描かれている。壁画は11～13世紀の西夏時代の作品とされ、西遊記が書かれた16世紀の明代より前のものだ。



莫高窟

自治区　新疆ウイグル

西へと向かう交易路

長安―天山回廊　世界文化遺産に登録

新疆ウイグル自治区は中国の西北部にあり、カザフスタン、キルギスなど八つの国と国境を接する。面積約166万平方㌔。中国の国土の約6分の1と、広大な領域を占める。アルタイ、天山、クンルンの三つの山脈が自治区を横切り、ジュンガル、タリムの二つの盆地が間にはさまる形は新疆の「疆」の字の右半分のようだといわれる。

古代シルクロードは北（天山北路）、中（天山南路）、南（西域南道）と三つのルートに分かれて自治区内を通り抜け、沿道には数えきれないほどの史跡がある。

区都のウルムチは天山の北麓にある新疆の最大都市。

郊外の「新疆天山」は2013年、世界自然遺産に登録された。雄大な山脈群で、ボゴダ、バインブルクなど四つの自然保護区で構成される。そのうちの一つボゴダ地区の天池はボゴダ峰の中腹にある湖で、万年雪をいただく周囲の山と湖の景色が美しい。中国のスイスとの異名もある。

トルファンはシルクロード有数の観光都市。新疆東部の山間盆地にあり、真夏の気温は40度以上となることから「火洲」とも呼ばれる。玄奘三蔵が経典を得るため西に向かう途中、仏教の講義をしたという高昌国の城郭都市、高昌故城と、戦国の末期から元代の旧都市の遺跡、交河故城は世界遺産「シルクロード・長安―天山回廊の交易路網」の構成資産だ。

クチャは天山の南麓にあり、新疆最大の烽火台跡、クズルガハ烽火台や、キジル石窟、スバシ仏寺遺跡といった世界遺産「シルクロード」を構成する三つの史跡がある。

カシュガルはシルクロードの天山南路と西域南道の接点に位置する新疆西部の政治、経済の中心。イスラム教の古代建築物で中国最大のモスク、アイティガルモスク、新疆最大の農村貿易集散地、大バザールなどの見どころがある。

ジムサル県の北庭故城遺跡と合わせて、自治区内の世界遺産「シルクロード」の構成資産は合計六つ。

高昌故城

天池

交河故城

「中国西遊記の旅」モデルコース

日付	日程	食	宿泊
１日目	日本から空路西安へ	夜機内食	西安
２日目	西安観光（兵馬俑、大雁塔）	朝○　昼○　夜○	西安
３日目	飛行機で敦煌へ 敦煌観光（鳴沙山）	朝○　昼○　夜○	敦煌
４日目	敦煌観光（莫高窟） 専用車で柳園へ　高速鉄道でトルファンへ	朝○　昼○　夜○	トルファン
５日目	トルファン観光（高昌故城、交河故城）	朝○　昼○　夜○	トルファン
６日目	専用車でウルムチへ ウルムチ観光（天池）	朝○　昼○　夜○	ウルムチ
７日目	空路北京経由日本へ	朝○　昼機内食　夜×	

お問い合わせ　中国駐東京観光代表処

cnta.tokyo@gmail.com

TEL03−3591−8686　FAX03−3591−6886